

品川区長 殿

2026年3月31日

令和7年度 第三者評価結果報告書

住所 東京都港区芝公園2丁目6番8号
日本女子会館1階
電話番号 03-5405-1501
評価機関名 公益社団法人 長寿社会文化協会
代表者氏名 事務局長 佐藤 陽子

下記のとおり評価を行ったので報告いたします

| | |
|-----------|----------------------|
| 対象事業所 | すまいるスクール大井第一 |
| 評価者 | 奥田優子 山田秀樹 |
| 評価実施期間 | 2025年8月7日～2026年3月31日 |
| 利用者調査実施時期 | 2025年9月26日～10月25日 |
| 訪問調査日 | 2025年11月29日 |
| 評価者合議日 | 2025年11月29日 |
| 評価結果報告日 | 2026年3月31日 |

講評

評価基準

| | |
|---|--------------------|
| A | 評価項目を実施している |
| B | 評価項目を実施しているが十分ではない |
| C | 評価項目を実施していない |

I 放課後児童健全育成事業の基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

| 通番 | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|----|------------------------------------|----|---|
| | (1)理念・基本方針が確立・周知されている。 | | |
| 1 | ① 理念・基本方針を確立・明文化し、職員及び利用者等に周知している。 | A | 基本方針は国の「放課後子ども総合プラン」を踏まえ条例を制定し、「すまいるスクール事業運営基本方針」に理念を明文化している。「運営規定」により目的や活動内容を示し、委託職員には日に2回の会議で周知している。利用者には登録前説明会にて写真やイラストを用いた資料を配布し理解促進に努めている。制度と運営が整備され、周知方法も工夫されている。 |

I-2 運営状況の把握

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|---|---------------------------------------|----|--|
| | (1)運営環境の変化等に適切に対応している。 | | |
| 2 | ① 事業を取り巻く環境と運営状況を的確に把握し学校と連携して対応している。 | A | 年1回の運営協議会に学校管理職や地域コーディネーター、外部講師、委託法人、区担当指導員が参加し、環境変化に対応している。毎週の生活指導夕会や要保護児童対策地域協議会等にも参画し、運営状況を的確に把握して学校と連携している。副校長を中心に管理職や担任との情報共有が綿密に行われ、以前より学校側の関与が増し、下校時の事故や子どもの課題にも協力して対応できる体制が整っている。 |
| 3 | ② 運営上の課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 | A | 全体会議やブロック会議を通じて運営課題を検討し、日々の委託職員とのミーティングで具体的な取り組みを共有し進めている。運営においては学年の特性を考慮し、子ども同士が遊びや学習を通じて自然に融合できるよう配置を工夫している。学校との協議を重ね、児童数や状況に応じて校内設備を活用し、安心して過ごせる環境を整備している。個々の子どもを尊重し自己肯定感を高める支援を行い、自由に遊びを選択できる心地よい居場所を実現している。 |

I-3 事業計画の策定

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|---|--|----|---|
| | (1)事業計画が適切に策定されている。 | | |
| 4 | ① 前年度中に翌年度基本方針を踏まえた年度の計画を策定している。 | A | 事業運営方針を明文化し、委託職員と課題を共有して計画に反映している。前年度末には基本方針を踏まえ委託職員リーダーと協議し、前年度の反省を基に年間事業計画を策定している。計画には課題3項目と目的・目標を明示し、低学年と高学年への配慮も盛り込んでいる。年度計画は区へ報告され、前年度中に翌年度方針を踏まえた計画を策定する体制が整っており、着実な運営姿勢がうかがえる。 |
| 5 | ② 事業計画をふまえたすまいるスクールの運営や活動内容を子どもや保護者等に周知し、理解を促している。 | A | 事業計画に基づく内容を反映したカラーパンフレットを作成・配布し、すまいるスクールの運営や活動内容を子どもや保護者に周知し理解を促している。さらに保護者会説明会を開催し、説明資料を用いて理解を深める工夫を行っている。加えて月1回「月のおしらせ」を発行し、継続的に情報提供を行うことで、利用者にとって事業内容の理解が進み、安心して参加できる環境づくりに寄与している。 |
| 6 | ③ 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。 | A | 「事業運営基本方針」を基に委託職員リーダー・サブリーダーと協議し事業計画を策定し、委託職員に周知している。全体会議では方針が共有され、ブロック会議で評価や課題が討議され、すまいるスクールのミーティングで見直しが行われている。事業計画の策定から実施状況の把握、評価・改善までが組織的に進められ、委託職員も理解を深めており、計画が着実に進められている。 |

I-4 放課後児童健全育成事業の質の向上への組織的・計画的な取組

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|---|--|----|--|
| | (1)質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。 | | |
| 7 | ① 放課後児童健全育成事業の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。 | A | 全体会議やブロック会議で事業情報を共有し討議を行い、すまいるスクールでも検討を重ね具体的な取組を進めている。放課後児童健全育成事業の質の向上に向けた取組は組織的に展開され、確実に機能している。職員一人ひとりが事業の質を意識し、子どもの興味や関心を把握しながら安全な生活を支えている。さらにブロックやグループ、担当指導員、委託リーダー等が協働し、連携体制の下で着実に推進されている。 |
| 8 | ② 組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。 | A | 全体会議やブロック会議で課題を明確にし改善策を検討し、すまいるスクールでも具体的に取り組んでいる。担当指導員は委託職員リーダー等と課題を協議し、ミーティングで委託職員と共有して改善策を進めている。区としての課題や改善策も委託職員と共有され、組織的に計画的な改善が実施されている。さらに学校との協力により限られたスペースを有効活用し、収納方法の見直しや追加教室の活用など環境改善にもつながっている。 |

II 組織の運営管理

II-1 担当指導員の責任とリーダーシップ

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|---------------------------|--|----|---|
| (1)担当指導員の責任が明確にされている。 | | | |
| 9 | ① 担当指導員は自らの役割と責任を委託職員に対して表明し、理解を図っている。 | A | 日々のミーティングにおいて「すまいるスクール事業運営基本方針」を基に役割や責任を伝え、担当指導員や委託リーダーの役割や指示を明確にしている。区として課題となっている事項や改善策についても委託職員と共有し、組織的な対応を進めている。さらにスタッフの自己理解を深める一助として、区の情勢や動き、法体制などのタイムリーな情報を提供し、意識向上と運営の質の確保に努めている。 |
| 10 | ② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。 | A | 法令遵守に向けて「品川区職員コンプライアンス推進行動規範」を基盤とし、必要に応じて根拠となる法令を確認しながら、ミーティングで具体的事例を示し委託職員へ周知している。さらに年1回のEラーニングを通じて理解度を確認し、遵守すべき法令を正しく理解する取組を継続している。こうした仕組みにより、職員の意識向上と法令遵守の徹底が図られ、コンプライアンス体制が機能している。 |
| (2)担当指導員のリーダーシップが発揮されている。 | | | |
| 11 | ① すまいるスクールの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。 | A | 担当指導員は日々のミーティングで区の方針や学校からの情報を伝え、必要な助言を行っている。スタッフの自己理解を深めるため、子どもの状況や支援内容などタイムリーな情報を提供し、質の向上に努めている。さらにすまいるスクールの質の向上に意欲をもち、ブロック会議やグループ会議を通じて兼務の特長を生かし、課題解決や改善に向けて指導力を発揮しており、着実な取組が進められている。 |
| 12 | ② 運営の見直しや業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。 | A | 担当指導員は日々のミーティングで区の方針や課題を伝え、改善策や進捗状況を委託職員と共有している。ホワイトボードや掲示板を活用し情報伝達の効率化を図るとともに、ペーパーレス化やインターネットを用いたメール配信を導入し、運営の見直しを進めている。これらの取組をリードする事により業務の実行性が高まり、効率的かつ組織的な運営が展開されている。 |

II-2 放課後児童支援員など人材の確保・育成

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|--|----|--|
| (1)放課後児童支援員など専門人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。 | | |
| 13 ① 職員の放課後児童支援員取得状況を把握し、人員配置について計画的な配置体制が整備されている。 | A | 委託職員リーダーから毎月提出されるシフト表を担当指導員が確認し、ブロック長へ報告することで計画的に人員配置を管理している。問題がある場合には委託法人のスーパーバイザーと協議し改善を図っている。さらに委託契約書に基づき職員の放課後児童支援員資格取得状況を把握し、計画的な配置体制を整備している。多数の利用児童を適切に支援できる優秀な委託職員を確保し、子どもとの距離感を大切にしながら自主的な遊びの展開を促している点に運営の充実が示されている。 |
| 14 ② 適正な人員配置に向け職員とともに確認や調整を行っている。 | A | 委託職員リーダーから毎月提出されるシフト表を基に人員配置を行い、日々の活動において臨時の変更や不備がないか確認している。活動の進行に伴い人員調整が必要となる場合には、委託法人のスーパーバイザーと協議し改善を依頼している。担当指導員は委託法人との連携のもと、職員とともに適正な人員配置を確認・調整し、日々の活動を円滑に進める体制を整えている。 |
| (2)職員の就業状況に配慮がなされている。 | | |
| 15 ① 職員の就業状況を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。 | A | 職員の就業状況を把握し、疑問点は委託職員リーダーへ逐一確認している。毎月提出されるシフト表を基に人員配置や勤務状況を点検し、不備のない体制を整えている。区の所管課も就業状況を把握し、現場ではチェックを通じて働きやすい職場づくりに取り組んでいる。日常ミーティングでは業務の共有や助け合いが行われ、風通しの良い環境が形成されている。さらにブロック内で懇親会を開くなど人間関係の向上にも努めている。 |
| (3)職員の質の向上に向けた体制が確立されている。 | | |
| 16 ① 職員の教育・研修に関する基本方針や計画を策定し実施している。 | A | 所管課では委託指導員も参加できる課内研修予定を作成し実施しており、担当指導員や委託職員の研修計画も策定されている。年間計画に基づき研修を行い、受講後にはアンケートを実施して理解度や改善点を確認している。さらに人権研修を含め、配慮を要する支援にも対応できる内容を取り入れている。委託法人においても独自に年間研修計画を作成し実施しており、組織的に研修体制が整備されている。 |
| 17 ② 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。 | A | 所管課では委託職員も参加できる研修機会を設け、委託法人においても独自に研修を実施することで、職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。さらに動画配信やインターネット参加など受講しやすい方法を取り入れ、学びの機会を広げている。これにより、職員が継続的に知識や技能を高められる環境が整備されている。 |

II-3 運営の透明性の確保

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|------------------------------------|----|---|
| (1)事業主体の運営の透明性を確保するための取り組みが行われている。 | | |
| 18 ① 公正かつ透明性の高い適正な運営のための取組を行っている。 | A | 「すまいるスクール運営マニュアル」に事務事項を明記し、内部監査を実施することで公正かつ透明性の高い適正な運営に努めている。区のホームページやカラーパンフレットを通じて児童や保護者に運営内容を周知し、掲示板を活用して運営状況を知らせている。さらに第三者評価を定期的に行い、その結果を区のホームページで公開することで、外部からの視点も取り入れた信頼性の高い運営が進められている。 |
| 19 ② 運営の透明性を確保するためのお知らせや周知を行っている。 | A | 運営の透明性を確保するため、ホームページやカラーパンフレットを通じて児童や保護者に運営内容を周知している。さらに第三者評価を定期的に行い、その結果を区のホームページで公開することで外部からの視点を取り入れた信頼性の高い運営を進めている。加えて掲示板を活用し、地域の情報提供とともにすまいるスクール大井第一のお知らせを周知するなど、情報発信の充実に努めている。 |

II-4 地域との交流、地域貢献

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|--|----|--|
| (1)地域との関係が適切に確保されている。 | | |
| 20 ① すまいるスクールと地域との交流を広げるための取組を行っている。 | A | 地域ボランティアを講師とした各種教室を運営し、運営協議会では学校地域コーディネーターや講師との意見交換を行っている。さらに区のイベント「わくわく広場」に参加し、地域住民との交流を深めている。加えてすまいるスクールと児童センターが連携し、地域とのつながりを広げる取組を進めている。これらの活動により、地域資源を活かした交流の場が形成され、子どもを支える体制の充実に繋がっている。 |
| 21 ② 外部講師(ボランティア)等の受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。 | A | 日々の教室終了後には地域の方が中心となる講師との意見交換を行い、運営協議会でも学校地域コーディネーターや講師との意見交換の場を設けている。「すまいるスクール運営マニュアル」においては外部講師(ボランティア)受入れの基本姿勢を明確にし、個人情報保護を前提とした登録や謝礼の事務体制を整備している。これらの取組により、地域との協働が円滑に進み、透明性と信頼性の高い運営が行われている。 |

| | | |
|----------------------|---|---|
| (2)関係機関との連携が確保されている。 | | |
| 22 | ① すまいるスクールとして必要な社会資源を把握し、関係機関等との連携を図っている。 | A すまいるスクール運営協議会や要保護児童対策地域協議会において、学校地域コーディネーターや教室講師との意見交換を行い、児童センターと連携して子どもの生活支援に努めている。さらに保育園・小学校連携事業や大学との共同、地域貢献活動などを事業として明記し、幅広い協働を推進している。必要な社会資源を把握し、関係機関との連携を積極的に図ることで、地域全体で子どもを支える体制が着実に整備されている。 |

Ⅲ 適切な育成支援の実施

Ⅲ-1 利用者本位の育成支援

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|--|---|--|
| (1)子どもや保護者等を尊重する姿勢が明示されている。 | | |
| 23 | ① 子どもや保護者等を尊重した育成支援について共通の理解を持つための取組を行っている。 | A 「すまいるスクール事業運営基本方針」に子どもの権利を明記し、利用登録時には保護者から児童理解に必要な書類を提出してもらい、希望に応じて面談を実施している。学校とも連携し、配慮が必要な子どもの保護者とは個別面談を行い、記入された配慮事項を職員間で共有している。保護者への声かけを積極的に行い、相談しやすい環境を整えている点も評価できる。さらに子どもや保護者を尊重した育成支援を進め、子どもが自らの力でできるよう促す姿勢が実践されている。 |
| 24 | ② 子どもや保護者等のプライバシー保護に配慮した育成支援を行っている。 | A 子どもの羞恥心や持ち物への配慮をはじめ、写真使用に際しても子どもや保護者のプライバシー保護を重視した育成支援が行われている。面談時には専用の部屋を確保し、保護者が安心して話せる環境を整えている点も評価できる。さらに個人情報を含む電子データは暗号化し、紙の書類は施錠可能なキャビネットに保管するなど、情報管理体制を徹底している。仕様書契約条項においても委託指導員の個人情報取扱いを明確に定め、プライバシー保護を推進している。 |
| (2)すまいるスクール登録・利用に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。 | | |
| 25 | ① 利用希望者に対して必要な情報を提供している。 | A 利用希望者に対して必要な情報提供を丁寧に行っている。新1年生の保護者には各家庭へカラーパンフレットや登録書類を郵送し、低学年には学校を通じて案内を実施している。さらに区のホームページを活用して広く周知を図り、問い合わせのあった保護者には見学対応を含めて誠実に応じている。これらの取組により、利用希望者が安心して情報を得られる体制が整備されている。 |

| | | |
|----------------------------------|---|---|
| 26 | A | <p>② すまいるスクールの利用開始・変更にあたり子どもや保護者等にわかりやすく説明している。</p> <p>すまいるスクールでは利用開始や変更の際し、子どもや保護者に分かりやすい説明を行い、保護者から高い評価を得ている。入学前の2月には説明会を開催し、資料「すまいるスクール大井第一利用にあたって」を用い、パワーポイントによる視覚的な訴求を行っている。さらに入退室記録システム「すまっぴ」配信メールで情報提供を行い、夏休み前にも説明会を開き、利用に関する資料を活用して丁寧に説明している。こうした取組により、保護者の理解と信頼を得ている点が評価できる。</p> |
| (3)子どもや保護者等の信頼関係の向上に努めている。 | | |
| 27 | A | <p>① 子どもや保護者等との信頼関係を図るうえで、すまいるスクールとして意識的に取り組んでいることや仕組みがある。</p> <p>すまいるスクールでは、登録前の説明会や夏の保護者会を通じて活動や児童の様子を丁寧に伝え、子どもや保護者との信頼関係づくりに努めている。児童同士や個々のトラブルが生じて、適切なタイミングで家庭と連絡・連携を図り、安心できる対応を行っている。委託職員は子どもを褒めながら理解を深め、情報共有を徹底することで保護者から高い信頼を得ている。さらに電話・手紙・対面など状況に応じた方法で情報を共有し、円滑な協働体制を築いている。</p> |
| 28 | A | <p>② 子どもの学年や発達段階に応じた伝え方の工夫や活動内容の提案・設定を行っている。</p> <p>教室やイベントの計画にあたり、児童の発達や実情を踏まえた企画が行われている。学年や発達段階に応じた伝え方や活動内容を工夫し、主体性を育む取組を計画書に反映している。学校で目立たない児童も工作や遊びを通じて自分の良さを発揮できる場があり、子どもが自らの力で取り組めるよう敢えて手助けを控える姿勢が見られる。職員は適切な距離感を保ちつつ遊びの展開を支援し、高学年児童がリーダーシップを発揮できるよう声掛けやサポートを心がけている。</p> |
| (4)子どもや保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。 | | |
| 29 | B | <p>① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。</p> <p>寄せられた苦情については日々のミーティングで内容や対応、保護者の反応を共有し、必要に応じて所管課や学校、委託法人とも連携している。また、意見箱の設置や子ども会議の開催など、子どもの主体性を尊重した仕組みの導入も検討されている。しかし現状では苦情解決の仕組みが明確でなく、利用者や職員への周知が十分ではない。今後は体制を整え、周知を徹底することで保護者等の信頼をさらに高めることが期待される。</p> |
| 30 | A | <p>② 子どもや保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、周知している。</p> <p>保護者の送迎時に積極的に挨拶を交わし、日常的なコミュニケーションを大切にしている。子どもとの関わりの中で得られる意見や気づきを受け止め、整備・周知につなげている点は評価できる。帰宅前の時間を活用して子どもとの会話を引き出し、相談や意見を述べやすい環境づくりにも配慮している。子どもからも「話を聞いてくれる」との声があり、信頼関係が築かれている。</p> |

| | | |
|------------------------------------|---|---|
| 31 | A | <p>③ 子どもや保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。</p> <p>保護者からの相談や意見は日々のミーティングで共有され、必要に応じてグループ長やブロック長、所管課と連携して対応している。また委託リーダーやスーパーバイザーとも協力し、組織的な体制のもとで迅速な対応が図られている点は評価できる。こうした仕組みにより、子どもや保護者の声を確実に受け止め、適切な対応につなげる環境が整備されている。</p> |
| (5)安心・安全な育成支援の提供のための組織的な取組が行われている。 | | |
| 32 | A | <p>① 安心・安全な育成支援を目的とするリスクマネジメント体制を構築している。</p> <p>「すまいるスクール運営マニュアル」や危機管理マニュアル、防災訓練計画、報告書を通じてリスクマネジメント体制を構築し、安心・安全な育成支援を目指している。すまいるスクール大井第一では独自に小学校と連携した避難訓練を実施し、実践的な安全確保に努めている点が評価できる。さらに日々のミーティングでヒヤリハットを確認し、事故防止に向けた改善を継続している。こうした取組により、子どもが安心して活動できる環境づくりが着実に進められている。</p> |
| 33 | A | <p>② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。</p> <p>「すまいるスクール運営マニュアル」に感染症予防や学級閉鎖時の対応を明記し、危機管理マニュアルにおいて児童や職員が罹患した際の対応方法を定めている。職員間で環境設定や対応手順を共有し、担当指導員が区からの情報や報道をもとに現状や見通しを伝える体制も整備されている。これらの取組により、感染症予防と発生時の安全確保に向けた仕組みが構築され、子どもたちが安心して活動できる環境づくりが進められている。</p> |
| 34 | A | <p>③ 活動中の子どものけがや事故に対し、対処すべきことや保護者等への連絡などが適切に行われ、その取組を職員間で共有している。</p> <p>「すまいるスクール運営マニュアル」や危機管理マニュアルに事故・けが発生時の対応を明記し、職員間で共有している。事故時には子どもファーストを第一義とし、事故速報や報告書を作成し所管課へ提出するなど、情報共有を徹底している。頸部より上の些細なけがも家庭へ連絡するなど丁寧な対応が行われている点は評価できる。活動中の事故やトラブルに際しても、保護者への適切な連絡・連携を図り、職員間で取組を共有することで安全確保と信頼性の高い運営に努めている。</p> |
| 35 | A | <p>④ 災害や火事などの発生時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。</p> <p>「すまいるスクール運営マニュアル」に児童安全確保のための対応を明記し、風水害や地震・津波、光化学スモッグ注意報、犯罪発生や不審者対応まで幅広く規定している。危機管理マニュアルに基づき災害発生時の対応を職員間で共有し、学校の避難訓練への参加に加え、すまいるスクール大井第一独自や委託法人独自の避難訓練も実施している。これらの取組は災害や火災など緊急時における子どもの安全確保を組織的に推進し、安心して活動できる体制を整えている。</p> |

Ⅲ-2 育成支援の質の確保

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|------------------------------------|----|--|
| (1)提供する育成支援の標準的な実施方法が確立されている。 | | |
| 36 ① 育成支援について標準的な実施方法を文書化している。 | A | すまいるスクールは、その運営にあたり「すまいるスクール事業運営基本方針」を定め、育成支援に関する基本方針、重要点として基本機能3点、発展的事業・活動4点、そのほかの取り組み7点を掲げ、放課後に児童が安心して利用でき、且つ保護者も安心して預けることができる居場所としての環境設定をめざしている。基本方針は全すまいるスクール間で共有し、各施設は「年間事業実施計画」を作成している。 |
| 37 ② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。 | A | 「すまいるスクール事業運営基本方針」は、前年度の評価と反省等を次年に反映させ、毎年2月の年度末に区所管課が作成している。この方針は各施設で共有され、担当指導員、委託法人に周知されており、各施設では着実な実行に向けて検討を進め新年度を迎えている。 |
| (2)子どもに対する育成支援の計画が策定されている。 | | |
| 38 ① 育成支援の方針を適切に策定している。 | A | 区所管課が作成した「すまいるスクール事業基本方針」に沿って、施設ごと「年間事業実施計画」を作成している。地域の特性や学校の状況を踏まえて作成された「年間事業実施計画」は、「地域、学校、すまいるスクールの状況」「基本方針及び今年度取り組む課題」「事業運営目的・目標及び内容」を詳細に明文化したものとなっており、教室・イベントでは対象学年、実施時期、年間回数と内容を表にしている。 |
| 39 ② 定期的に育成支援の評価・見直しを行っている。 | A | 年度当初にその年度の方向性を定め、教室やイベントは対象の学年や取り組み内容と目的を明確にしている。計画を組む際には、伝統文化、スポーツ・運動、遊び・教育、ものづくり、イベントに分野を分けて、偏りをなくす工夫をしている。講師やスクールのイベントは前年度の子どもの要望や反応、実施内容を振り返り、次年度の計画に反映している。 |

| | | |
|--------------------------|-------------------------------------|--|
| (3) 育成支援実施の記録が適切に行われている。 | | |
| 40 | ① 子どもに関する育成支援の記録が適切に行われ、職員間で共有している。 | A すまいるスクールでは委託職員リーダー、サブリーダーを含めシフト制で常時11名の職員が対応している。出勤した職員は必ずミーティングノート(共有の引継ぎノート・連絡ノート)の記載事項を読み、日々の子ども、保護者の情報等を確認している。11時40分になると8時間勤務の常勤職員4名はミーティングを実施し、13時30分になると全体ミーティングを実施して子どもの前日の様子、当日の流れ等を確認し合っている。職員は体育館、校庭、家庭科教室、A・Bルーム等その日担当する箇所を1時間交代で務めることと定めており、前もってマグネットで配置を明確にしている。夕方17時の全体ミーティング(報告会)は常勤職員が書記を担当し、内容をミーティングノートに記入し、それらを読むことで職員が情報を共有している。読後は確認印を押し確実な共有につなげている。夕方の報告会の前に勤務を終わる職員はミーティングノートに実施内容と気づき、育成状況のまとめ記入してから帰ることと定めている。 |
| 41 | ② 子どもや保護者等に関する記録の管理体制が確立している。 | A 個人情報を含む保護者、子どもの記録等は「運営マニュアル」に従い鍵のかかる書庫に管理し、電子データについては暗号化し情報の漏洩を防いでいる。午後の全体ミーティングで職員は、伝達事項と共にその日の勤務体制を確認し、持ち場の入れ替え等をメモしているが、それらメモの扱いには十分注意している。 |

IV すまいるスクールの活動に関する事項

IV-1 子どもとの関わり

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|--|----|---|
| (1)子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備 | | |
| 42 ① 子どもが安心して過ごせる生活の場としての環境を整備している。 | A | 定期清掃のほかに職員の随時の清掃で、清潔な環境を整えている。職員は、子どもたちが来る前に消毒、室内の整理整頓をして安全な環境になるように整備している。毎日の点検で危険個所が確認されたときは直ぐに検討し、遊具の位置や室内のレイアウトを変更するなど、子どもの安全を第一に考えている。教室、校庭、体育館の使用ではルールを定め掲示し、子どもが自ら危険を察知する力をつけることができるようにしている。配置図を作成したり、コーンを置いて危険が予想されることを知らせたり、口頭での注意で気をつけることを知らせ、事故を未然に防ぐことに力を入れている。 |

| (2)子どもにふさわしい受け入れ体制 | | |
|-------------------------------|---------------------------------------|--|
| 43 | ① 子どもがすまいるスクールに自ら進んで通い続けられるように援助している。 | A 遊びのイベント、工作イベントなど、子どもが楽しく過ごせるように、スケジュールを組んでおり、子どもの目に触れやすい場所にスケジュールを掲示するなどして参加を誘っている。クラフトとみんなで遊ぼうを毎月企画し参加を募っている。日々の育成では、子どもの年齢や発達に合った玩具や本を用意して、個人や集団で遊びに夢中になれるように、職員が配慮している。今までは子どもと職員の会話から希望や要望を汲み取っていたが、今後は「リクエストボックス」を置き子どもの意見を募っていきたいと考えている。 |
| 44 | ② 子どもの出欠席を把握し、適切に援助している。 | A 「すまっぴ」にタッチすると保護者にも入退室の情報が伝わるシステムを使用している。来室後、入り口で名札を取り、子どもたちは参加カードを提出し、受け取った職員は帰宅時刻と帰宅方法を確認している。「一人帰り」「集団帰宅」「お迎え」を登録児童の受付名簿に正確に記載し管理している。他に民間学童事業者による迎えもあり、保護者と事業者双方が記入した「前もって代理お迎え届出書」の提出と、別途ルールを守ることで確実な出欠管理をしている。参加カードへの記入漏れ等があった場合は保護者に電話で確認し、帰宅時間も変更は電話記録簿にまとめ、その後職員が転記している。 |
| (3)子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援 | | |
| 45 | ① 子ども自身が見通しをもって主体的に過ごせるように援助している。 | A 壁面に毎月のイベント等を手づくりの月間カレンダーに記入して掲示し、イベントごとのポスターも貼って、子どもが選んで参加できるようにしている。各活動場所一覧ボードには今日の予定と使用できる時間、場所を記載し、子どもが見通しを持って主体的に活動できるようにしている。いずれも子どもが見て理解できるように配慮している。校庭や体育館で活動できる時間をホワイトボードに記載し、職員が意欲を持って参加できるように声をかけている。大井第一小学校は各学年4クラス編成の児童数の多い学校であり、すまいるスクール大井第一は登録児童数が多く、その特徴を踏まえた場所の設定を日々考えている。狭い中での活動が予想され、場所の提供には配慮が必要となっており、学校との情報交換を密にして、理解の下での運営となっている。 |
| 46 | ② 日常生活に必要となる基本的な生活習慣を習得できるように援助している。 | A 食事の前や校庭、体育館での活動後の手洗い、ロッカーの使い方、遊具の片付けなどの基本的な生活習慣について、口頭や掲示物でわかりやすく伝えている。利用開始直後では、受付を済ますと学校に物を取りに行けないことから、受付前に職員が忘れ物はないか声をかけている。帰宅準備も、あえて職員は手伝わず見守り、子どもが自分で考えて行動した時は大いに褒めるようにしており、意欲の向上につなげている。学習習慣が身に着くように学習タイムを設け、静かに読書等ができる時間を確保している。 |

| | | |
|--|----------|---|
| <p>47 ③ 子どもが発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように援助している。</p> | <p>A</p> | <p>子どもの年齢や発達に見合った玩具、図書を用意し、子ども自身が自分の興味に合わせて選択できるようにしている。工作、運動、美術、音楽と多才な職員が多く、特に毎月のクラフトは充実した時間となっており好んで参加する子どもが多い。10月はアルミホイルでサンマを作ったが、リアルなサンマが並ぶ中で、サンマじゃない魚を作る子どももいて、楽しい体験となった。落ち葉を拾い半紙を使ったこすり絵も好評で、職員は短時間で満足できる工作について、工夫を重ねている。職員は子どもの発想から遊びが発展するように声をかけている。平日は学習室で読書を、夏季休暇では朝の時間帯の45分を学習タイムにし、好きな読書に没頭する子どももいる。</p> |
| <p>48 ④ 子ども同士の関係を豊かに作り出せるように援助している。</p> | <p>A</p> | <p>大井第一小学校は児童数の多い学校で、校区外からの通学希望者の家庭も多く、すまいるスクール参加の児童は日々200名を超える日もある。委託法人は職員教育では定評があり、研修等で子どもに対する視点を学びハートの温かい熱心で意欲のある職員が多い。子ども同士の関係として「仲のいい子がいないと行きたがらない」「同じメンバーで遊ぶ」等の傾向を掴み、職員は一人で遊んでいる子どもにさりげなく声をかけるなど、また、他の子どもの遊びにも興味を持てるようにしている。職員が遊びに誘い、大きい子どもが他の子どもをまとめていけるようにサポートしている。異年齢の交流はすまいるスクールの大きな特徴となっており、関わりから新しい関係性が生まれるように配慮している。</p> |
| <p>49 ⑤ 子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助している。</p> | <p>A</p> | <p>年間で学年ごとのめあてを決め、それに沿って育成をしている。職員は子どもの発達の状況をよく理解し、子ども同士のトラブルには必要に応じて職員が双方の気持ちを受け止め仲立ちをしている。子ども自身が解決できる力を育めるようにしている。子どもたちが安心して自分の思うことや気持ちを表明できる環境が大切と考えている。職員は子どもの気持ちに十分配慮して声をかけており、その日の活動で気になることがあった場合は、ミーティングノートに記入し情報を共有している。</p> |
| <p>(4)固有の援助を必要とする子どもへの適切な育成支援</p> | | |
| <p>50 ① 障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで、受け入れに努めている。</p> | <p>A</p> | <p>配慮の必要な子ども、発達面で気になる子どもについては、職員全員が子どもの成長を応援する視点で関わっている。巡回相談を実施する中で、相談員からのアドバイスやフィールドバックシートを活用し、子どもの情報や対応についてミーティングで共有している。どの職員が対応しても支援ができるようにすることが大切と考え、必要時はマンツーマンの対応にも応じている。巡回指導を通じて、障害への理解と支援方法を職員が学んでいる。</p> |

| | | |
|------------------|---|--|
| 51 | A | <p>大井第一小学校には特別支援固定学級はないが、個別配慮や支援を必要とする児童が登録しており、保護者と学校担任と連携をとって支援の充実をめざしている。こどもが好きな玩具を揃え楽しい時間を過ごすことで、満足感を感じてもらえるような配慮をしている。他児童と遊ぶ中でトラブルが起きそうになった際の介入の仕方等を職員が確認している。また、子どもたち同士で、理解が進むように声をかけるなど、ケースによって対応を工夫している。</p> |
| 52 | A | <p>「すまいるスクール事業運営基本方針」に則り、必要に応じて児童相談所や学校と常に連携を図っている。日頃から子どもの体調や様子、言動に気を配り、気になる事柄があれば学校教員、グループ長、ブロック長、所管課と相談し、子どもの心身の安全を守るよう配慮している。子ども家庭センターとの連携を深め、育成中に気になる児童がいた場合の対応方法を職員が身につけている。</p> |
| 53 | A | <p>「様々な人がいて、みんな違う」のが普通であるということ育成中に伝えている。海外にルーツのある子どもとの文化の違い等は、職員が率先して世界の様々な生活様式や習慣を伝え子どもの知識が広がるように配慮している。日本語以外の言語を使う保護者や子どもがいた場合は、「言語変換器」を使用するようにしてコミュニケーションが円滑におこなわれるように配慮している。お互いに理解することが大切であることを伝えている。</p> |
| (5)適切なおやつ(間食)の提供 | | |
| 54 | A | <p>間食については、献立表に基づき適切に提供しており、検食も実施している。A登録子ども(17時01分から19時までの利用の子ども)のうち希望者に間食を提供している。土曜日に到着した間食を担当職員が日ごとに分け、間食名簿と照らし合わせながら名前を呼んで子どもたちに手渡して、誤配食を防いでいる。遡って誰がいつ何を食べたか確認できるようにしている。</p> |
| 55 | A | <p>始業時の全体ミーティングで間食のアレルゲン、原材料名の確認をするとともに、パッケージを確認し、提供ミスを防いでいる。間食は、8大アレルゲンになる材料を使用しないものを提供している。申し込み時に保護者からアレルギー調査票を提出してもらい、対応が必要なケースでは保護者と面談し配慮の程度を確認している。緊急時にエピペン(アナフィラキシーに対する補助治療剤)をすぐ取り出せるように、ランドセルを一番手前の所定の場所に置くことと定めている。アレルギーのある子どもの情報は一覧にまとめ職員が共有しており、アレルギー対応マニュアルも完備し職員全員が迅速に対応できるようにしている。子どもには、食べはじめる前に「他の人と交換しないように」「前を向いて食べる」と毎回伝え誤食、誤嚥防止に努めている。</p> |

| (6)安全と衛生の確保 | | |
|-------------|------------------------|---|
| 56 | ① 子どもの安全を確保する取組を行っている。 | A 危機管理マニュアルを職員間で丁寧に確認している。すまいるスクール安全計画を作成し「安全点検」「児童・保護者に対する安全教育等」「訓練・研修」「再発防止策の徹底」について実行計画を定めている。すまいるスクール利用者の災害発生を想定した避難訓練を実施している。下校時の事故防止の観点から「交通安全教室」を実施し、児童向けに交通安全教育をおこなっている。子どもの下校時は、同じ時間帯の子どもを職員が校門まで送る一斉送り出しを実施しており、民間学童事業者による迎えについてのルールを定めるなど、下校時の子どもの安全には十分配慮している。 |
| 57 | ② 衛生管理に関する取組を適切に行っている。 | A 定期清掃に加え、職員が室内の整理整頓に努めている。感染症発生時の嘔吐物処理セットを用意し、職員が処理の方法、安全に関する手順を確認している。遊具の点検、玩具の消毒を行ない衛生的な環境の維持に努めている。 |

IV-2 保護者・学校との連携

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|------------|--------------------|--|
| (1)保護者との連携 | | |
| 58 | ① 保護者との協力関係を築いている。 | A 毎月発行するお知らせは配信で保護者の手元に届くようにし、すまいるスクールの取り組みを知らせている。保護者会の開催、お迎え時の会話等で理解を求めている。すまいるスクール内での事故や怪我については、迅速に対応するとともに保護者に連絡している。「すまっぴ」のシステムを活用してお知らせを共有することも可能となっている。必要に応じて個人面談を実施しており、意見や考えを聞く姿勢を保っている。保護者とのやり取りはミーティングノートに記載して職員が共有している。 |

| | | |
|-----------|----------------------------------|--|
| (2)学校との連携 | | |
| 59 | ① 子どもの生活の連続性を保障するため学校との連携を図っている。 | A 週1回、学校の生活指導夕会に担当指導員が出席し、校長、副校長、担任教諭との情報交換をしている。学校便りで情報を確認し、必要に応じて直接担任と情報交換し、学校とすまいるスクールの生活の連続性を大切にしている。学校とは良好な関係性を保っており、特に副校長が折に触れて「学校はこうするので、すまいるはどうする？」との声かけがあり、連携しての運営が児童の支援に良い効果を上げている。 |

| | | | |
|----|---|---|---|
| 60 | ② 放課後等の子どもの充実した活動を展開していくために、学校との連携を図っている。 | A | 年に1回、すまいるスクール運営協議会を開催し、学校の管理職、地域コーディネーター、外部講師等にすまいるスクール運営情報を発信している。相互に理解を深めている。 |
|----|---|---|---|

IV-3 子どもの権利擁護

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|-------------|---------------------------|--|
| (1)子どもの権利擁護 | | |
| 61 | ① 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。 | A 職員は子どものことをたくさん褒めている。常に子どもを肯定的に受け止めており、職員は自分の対応を自ら振り返る機会を設けている。育成中に人権侵害にあたる体罰や暴言がないよう、職員間で確認し合っている。委託職員リーダーが受付に立ち、巡回したり現場に入って活動に参加しており、子どもの様子を常に気にかけて職員と子どもの良好な関係を確認している。日常のミーティングを通じて職員同士が様々な業務について共有し、気軽に教え合うなど、風通しの良い働きやすい環境がすべての基礎となり、職員の子どもの権利を守る意識が高く保たれている。 |

総 評

◇特に良いと思う点

- 多数の児童を適切に支援できる力量ある委託指導員が、質の高い運営を実現している

委託指導員は多数の児童を適切に支援できる優秀な人材が確保され、子どもとの距離感を大切にしながら自主的な遊びを促すなど、質の高い運営に貢献している。人員配置や勤務状況を計画的に点検し、不備のない体制を整えるとともに、区の所管課とも連携して働きやすい職場環境づくりに努めている。日常ミーティングで業務共有や助け合いを行い、風通しの良い環境を形成している点も評価できる。さらに区や委託法人による研修計画が整備され、理解度確認や人権研修を含む内容で専門性を高めており、委託職員の質により運営が実現されている。

- 学校や地域と連携し、子ども支援体制を充実させている

すまいるスクールでは、運営協議会に学校管理職や地域コーディネーター、外部講師、区担当指導員らが参加し、環境変化に対応している。毎週の生活指導夕会や要保護児童対策地域協議会にも参画し、副校長を中心に管理職や担任との情報共有を綿密に行うことで、下校時の事故や子どもの課題にも協力して対応できる体制が整っている。さらに地域ボランティアを講師とした教室運営や区のイベント参加、児童センターとの連携を通じて交流を広げ、幼保小連携や大学との共同事業も推進している。こうした幅広い協働により、学校と地域が一体となって子どもを支える体制が充実している。

- 保護者と信頼関係を築き、子どもの主体性を育む環境を整えている

すまいるスクールでは、登録前の説明会や夏の保護者会を通じて活動や児童の様子を丁寧に伝え、子どもや保護者との信頼関係づくりに努めている。児童同士や個々のトラブルにも適切なタイミングで家庭と連携し、安心できる対応を行っている。委託職員は子どもを褒めながら理解を深め、情報共有を徹底することで保護者から高い信頼を得ている。教室やイベントの企画では発達段階に応じた工夫を凝らし、主体性を育む取組を計画書に反映している。学校で目立たない児童も工作や遊びを通じて自分の良さを発揮できる場があり、職員は適切な距離感を保ちながら支援し、高学年児童のリーダーシップを促している。送迎時の挨拶や帰宅前の会話を通じて、相談や意見を述べやすい環境を整えている。

◇更なる改善が望まれる点

- 苦情への対応体制を分かりやすくし、丁寧に周知していくことで、より一層の信頼につながることを期待される

寄せられた苦情について、日々のミーティングで内容や対応を共有し、必要に応じて区の所管課や学校、委託法人と連携して丁寧に対応している。また、意見箱の設置や子ども会議の開催など、子どもの主体性を尊重して対応する仕組みを検討されている。一方で、苦情解決の仕組みが明文化されておらず、利用者や職員への周知が十分とはいえない現状がある。今後は苦情解決の体制を整え、分かりやすく伝えいくことで、保護者等からの信頼がより確かなものとなることを期待される。